

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→②ダイナミックな多角的、立体構造：背後に神意 [偶然はない]

→④^{まこと}真の神の預言：成就の確かさ

→⑤過去百パーセント成就した預言の^{しんびょう}信憑性は未来預言の確かさを約束：預言の宝庫、聖書

2020年の聖書的展望 —究極的な分離への分岐点—

☆新年は「神からの言葉は何か？」と、神の御旨を仰ぐことで始まる

世界的に新しい動きへの過渡期

☆2019年、すべての領域において、物理的、霊的変動が顕著に

☆聖書の民、一ユダヤ人とキリスト者—への迫害の激増

☆迫害されている人たちの間で霊の覚醒

☆社会的通念の崩壊

☆聖書の絶対基準や伝統の破壊、社会の無法化と倫理観、道徳観喪失に拍車

→イザヤ書3章

☆神の創造の摂理に反逆する霊、勃発的出現

☆国家間の政治的衝突、内政の混乱の激化

例：英国

★2016年6月24日、EU離脱路線に、2019年10月31日、「合意なき離脱」達成できず

★12月12日の総選挙でボリス・ジョンソン氏、大勝利、2020年1月31日のEU離脱を宣言

★ジョンソン氏、クリスマス演説でイスラエルとキリスト者を擁護する立場を表明

★英国の聖書を信じるキリスト者たち、熱心な執り成しの祈りが聞かれたことを確信

中東

★1月3日、イラン革命防衛隊のソレイマニ司令官殺害によって、米国とイランとの関係悪化、イスラエルをも含む米国関連諸国へのイランの報復、応酬の繰り返しが懸念されたが、現在両国が平和を求め、危機は回避

★イラン国内の政府非難の抗議デモ、昨年11月に続き、今年1月11日に再燃

2019年から持ち越された問題

1. 自然災害の強度、頻度の増加 —聖書的には神の怒りの手段—

前例のない国家危機に直面しているオーストラリア

★森林火災が2019年9月に始まり、夏季に入る12月から被害が深刻化、一大地の灼熱化、

干ばつ、鎮火できない火災、二千戸以上の家屋の焼失、長期化する大気汚染で生体に悪影響

★ニューサウスウェールズ州とビクトリア州、高速道路、山々を横切る延焼で町全体が平坦化

★コアラ、カンガルーなど野生動物にも多大な被害

最大8,000匹のコアラを含む最大4億8,000万匹の動物、死亡と推定

究極的な神の裁き的手段は「火」

→ペテロ第二3：12

★人が神から離れ、神から管理を任されている地を酷使し続ける結果どうなるか、

背信の結果、飲料水の確保、安全な大気の維持、健全な大地がもはや保障されないとの預言的警告は聖書に満ちている

→イザヤ書24：1-7

†究極的に「残りの者」—最後まで主との親密な関係に生き続ける者—だけが残される

聖書

2. 反ユダヤ主義の増加 —神の真の民が残される過程—

- ☆この世は、反聖書、反ユダヤ、反キリスト路線へと加速化
 - ☆ユダヤ人、何世紀にも亘って、中東、中央ヨーロッパ、旧ソビエト連邦領土で迫害を受けてきた
 - ☆英国は過去800年、ユダヤ人にとって比較的平穏な居住地
 - ☆米国でユダヤ人は社会のすべての領域、特に商業界、産業界で富み栄え、政府でも重要な地位に就き、国家繁栄に大きく貢献
 - ☆しかし、欧米はユダヤ人にとってもはや安住の地ではない
例：2019年12月23日のハヌカの祝日に起こったニューヨークのシナゴグ襲撃事件
 - *仏をはじめ、米、英からの「アリヤー」、年ごとに増加予測

 - ☆ユダヤ人ボイコット運動（BDS）が活発化
 - ☆これらの現象、諸国民の神離れ、反聖霊、反聖書の霊の広がりを示唆

 - ☆神の視点からは本国帰還の預言の成就のとき到来
 - ☆全地のユダヤ人のイスラエル帰還はキリストの再臨を明確に指し示す出来事
→イザヤ書11：11-12、43：5-6ほか
-

ときのしるし

【1】善と悪、真と偽、真理と虚偽の分離

- 例：昨年、英国のメソジスト教会の牧師、LGBTの問題に関して自らの聖書的立場を公に表明後、直ちに辞職するようにと、公然と勧告された
 - *届いた公文書は、12月31日までに牧師館を出るようにと、忙しいクリスマスの時期に三週間以内の退去通知
 - *聖書的立場を毅然として表明したことで痛い跳ね返りが及んだ容赦ない現実

- †12月17日、LGBT、同性婚の名高い擁護者スティーブン・コットレル司教、英国国教会の次期ヨーク大主教に任命された

- †英国のメソジスト教会、今年夏の年次総会で、同性婚容認の見通し
教派内の分裂結果、二つの派への分離予測
- †米国で最大のプロテスタント教派の合同メソジスト教会（UMC）は、今年1月3日、LGBT、同性婚問題で分裂、5月の教会総会で正式に分派、新教派設立の見通し

- ☆この時流に乗らなければ、
聖書の真理を信奉するキリスト者は真理を否定する組織から追い出される
- ☆一致団結することは好ましいこと、しかし、
神の言葉、教えの高潔が脅かされる場合には、組織から出る必要
→黙示録18：4
- ☆「主にある残りの者」とは、神によって聖別され、この世から分かれた民
「不信者（未信者ではない）とつり合わないくびきをともにすることはできない」
→コリント人第二6：14-15、コリント人第一5：9-13

聖書

【2】世界統一宗教への動き

- ★教皇フランシスコは2019年2月8日、バチカンとイスラム教間の『平和契約/協定』にアブダビで調印、11月17日、バチカンでイスラム教のイマームと二者会談、12月1日、タイの最高の仏教総主教と会談、宗教統一の必要を強調
- ★目標は2020年6/7月にオランダのハーグで予定されている世界宗教のための友好協定、現在、歴史的な宗教巨頭会談の準備進行中

- ★他方で、聖霊に導かれ、御言葉の学びと祈りを中心とし、「御国の福音」を宣教する小さなキリスト者の群れも世界中で成長
- ★中東、イラン、イスラエルで、キリストご自身の顕れと聖霊の働きによってキリスト者急増の奇蹟

【3】キリストによる「火のバプテスマ」の近づき

- ★神の御旨でないものはすべて、火の裁きによって完全に滅びる
 - マタイ15：13
- ★悪の根が根源から取り除かれ、「残りの者」は聖められる
 - マタイ3：10

【4】預言的行動で示されたキリストの一連のたとえからの教訓

- ★実をならせなかった木に与えられたもう一年のチャンス
 - ルカ13：6-9
- ★主が望まれるのは「実」であって、「葉」一人のわざ、宗教行為—ではない！
 - †「実」は、主によって変えられた心から生み出される
 - マルコ11：12-14
 - 「…葉のほかには何も見つからなかった。いちじくのなる季節ではなかった…」

- ★キリスト、不信仰なイスラエルにやがて起こること、—西暦70年のエルサレム陥落—を預言的行動で示された
 - マルコ11：20
- ★主が「お入り用」のとき備えができていべきであるから、いかなるときであろうと、主に応えることが要求される

【5】2020年は実を実らせることに専心する年

- ★キリストの再臨が非常に近づいている今日、主の顕れと御国を待ち望みつつ、ときが良くても悪くても、実を実らせることに専心
 - テモテ第二4：1-2
- ★主につながっている必要
 - ヨハネ15：5-6

【6】究極的に、揺り動かされないものだけが残る

- ★神が植えられなかったものはすべて、根こそぎ取り除かれる
 - ヘブル人12：26-29
 - 「…揺り動かされないものだけが残るため…私たちの神は焼き尽くす火なのです」

聖書

実践面

☆現在、教派の教会組織に所属しているキリスト者

→テモテ第二3、4章 「終わりの日…困難な時代」の警告

☆「キリストの顕れと来たるべき御国を思いながら」御言葉を宣べ伝える

→テモテ第二4：1

☆真理が語られているかぎり、現在所属しているところに留まる

☆キリストの真の証人として、聖書が証しする福音を信奉し、告げる

→テモテ第二2：15

☆この世に迎合することなく、聖書に基づいた信仰姿勢を維持する

→テモテ第二3：14

☆日々、神の御旨と神の知恵を仰ぎ、主の指示に従う

→どのような環境下でも、神の御前に正しく生きることができる

☆聖書からの例証

☆族長ヨセフ、ダニエル、ネヘミヤ、エステル

☆神は異邦人をも救いの手段として用いられ、神の御旨を行う異邦人王国を祝福される

例：イラン

★ユダヤ人コミュニティやキリスト者コミュニティの存在が許されている

★神の民、迫害を避け、敵意をあおらないように、表向きはイラン社会に順応、かつ、信仰を保ち続けている

★ユダヤ人コミュニティ、キリスト者コミュニティの各代表、1月6日、ソレイマニ司令官の家に弔問に伺い、葬儀にも出席、礼節を尽くした

★今日イランでは、二百万人のイスラム教徒がキリスト者に回心、イスラエルや米国に対して敵愾心を抱いているのはイラン国民ではなく、イラン政府の立場

例：アフガニスタン

★12月初め、中村哲医師暗殺

アフガニスタンで叙勲され、人道主義者として国際的に大きく評価された

★戦争と軍国主義放棄を誓った『憲法9条』を擁護、バプテスト教会の信徒であった

12月28日のジャパンタイムズの記事

★中村医師がイスラム教徒の国で長い間迫害されることなく、

安全が守られ、現地の人道支援のために働くことができた背後には、

日本人＝戦争放棄国家という地元の人たちの間に根づいた信頼関係があった

★自衛隊を軍事力化し、中東に派遣して米国を助けようとする日本政府の考えと中村医師の政府への再三の警告は折り合わず、そのような中、事件が起きた

★今回の事件は、昨今、日本の中立的イメージが

アフガニスタンをはじめ、イスラム教徒たちの間で薄れてきていることを示唆

☆『憲法9条』改正に関する聖書的警告

★平和主義、戦争放棄は神の御旨

→マタイ26：51-53、テモテ第二2：22

★平和憲法改正で自衛隊を軍事力化することを合憲にするなら、日本から神の守りが取り除かれる

→マタイ23：37-39、イザヤ書5：1-7ほか